

見えない「境界線」

のおがたしりつのおがただいさんちゅうがつこうにねん まつやま
直方市立直方第三中学校二年 松山 華音 かのん

皆さんは、誰かをいじったり、誰かにいじられたりした経験はありませんか。やり取りの中で、お互いが嫌な思いをしていなければ、それはひとつの会話として成立すると思います。しかし、どちらか一方でも嫌な思いをしていれば、それは本当に「いじり」と言えるのでしょうか。

そもそも、「いじり」とは何なのでしょう。「いじり」とは、一般的に冗談やからかいを通して、親しみを表す行動だと考えられています。ただし、お互いが傷ついておらず、関係が対等であることが前提です。このどちらかが欠けてしまえば、「いじり」ではなく、「いじめ」になってしまう可能性があります。「いじり」と「いじめ」には、見えない、わずかな「境界線」があるのです。

「いじめ」とは、相手が傷ついているにもかかわらず、からかいや嫌がらせが続く状態のことです。「いじめ」を受けた人は、精神的にも、身体的にも深く苦しみ、最悪の場合、命を絶ってしまうこともあります。「いじめ」は、個人の尊厳を傷つける行為であり、明らかな人権侵害になるので、絶対に許されることはありません。

自分が「いじり」のつもりで言ったこと、やったことで相手が傷ついてしまえば、それは「いじめ」となってしまいます。

そうならないためには、相手の立場になって気持ちを考え、自分の行動や言動を見直すことが大切です。これからは、言葉を発する前に一呼吸おいて、相手がどう感じるかを想像する習慣をつけたいです。そして、もし周りに嫌な思いをしている人

がいたら、ゆうき勇気を出して、こえ声をかけられるような人になりたいと思いました。